

2026年度の新入社員アンケートから

—就職先でいつまで働くか「分からない」が最多—

当研究所では、毎春、県内の新入社員を対象にアンケート調査を行っている。県内全6先の商工会議所にご協力いただき、同会議所が開催する新入社員講習会に参加した方々から回答を得た。

調査結果から、就職活動中にもっと知りたかった情報として、「若手社員の仕事の様子」「会社の雰囲気」に回答が多く集まった。また、就職先を選定した理由では「イメージがよい」との回答割合が最も高くなったほか、就職先でいつまで働くかを「分からない」とする割合が最も高くなった。

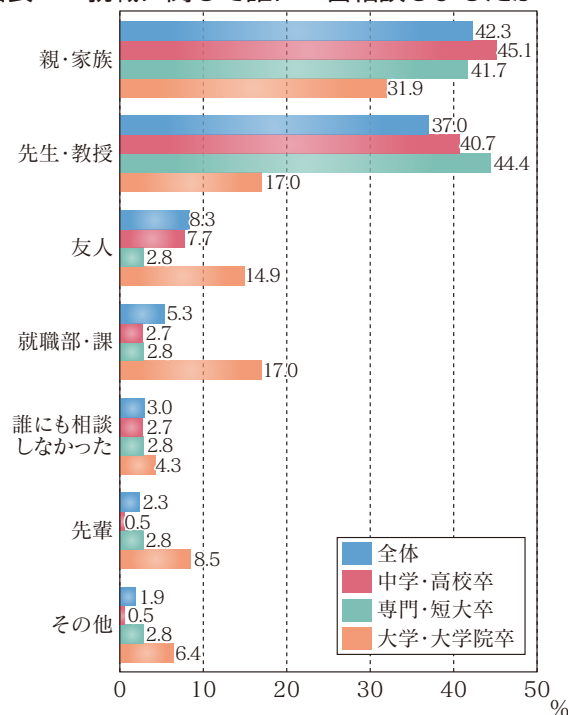
1 アンケート結果

Q1 就職に関して誰に一番相談しましたか

一番相談した相手として、全体では、「親・家族」(42.3%)が最も回答割合が高くなった(図表1)。回答割合は、昨年実施した前回調査(48.1%)を5.8ポイント下回った。

最終学歴別に各項目をみると、「親・家族」の回答割合は、中学・高校卒(45.1%)と専門・短大卒(41.7%)で4割を超え、大学・大学院卒(31.9%)を上回った。「先生・教授」は専門・短大卒(44.4%)と中学・高校卒(40.7%)が4割台となり、大学・大学院卒(17.0%)の2倍以上となった。また、大学・大学院卒では、「就職部・課」(17.0%)と「友人」(14.9%)が二桁台となり他学歴を上回った。

図表1 就職に関して誰に一番相談しましたか



調査要領

- 1 調査目的 新入社員の就職に関する意識を把握する。
- 2 調査期間 2026年3月11日～4月15日
- 3 調査方法 新入社員講習会における無記名アンケート方式
- 4 回答者 265名

回答者の内訳

地域別	大館市	能代市	秋田市	大仙市	横手市	湯沢市	合計
人数(人)	24	47	106	31	35	22	265
構成比(%)	9.1	17.7	40.0	11.7	13.2	8.3	100.0

最終学歴別	中学・高校卒	専門学校・短大卒	大学・大学院卒	合計
人数(人)	182	36	47	265
構成比(%)	68.7	13.6	17.7	100.0

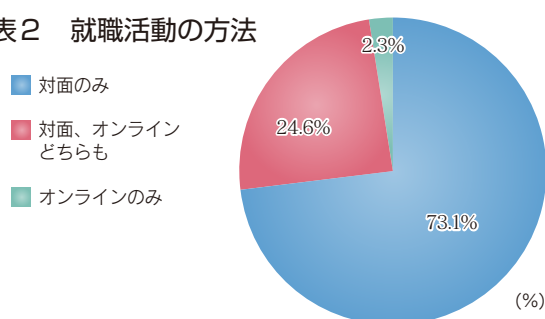


Q2 就職活動の方法、利用した機関・イベント

就職活動の方法として、全体では、「対面のみ」(73.1%)が最も回答割合が高くなり、「対面、オンラインどちらも」(24.6%)、「オンラインのみ」(2.3%)を大きく上回った(図表2)。

また、利用した機関・イベントとしては、回答割合が高い順から、県と秋田労働局などが主催する「秋田県合同就職説明会・面接会」(19.7%)、「ハローワーク」(17.8%)、「人材ビジネス業大手主催の会社説明会・面接会」(12.9%)が二桁台となった(図表3)。

図表2 就職活動の方法



図表3 就職に関する機関やイベントの利用割合 (単位: %)

秋田県合同就職説明会・面接会	19.7
ハローワーク	17.8
人材ビジネス業大手主催の会社説明会・面接会	12.9
あきた就職活動支援センター	4.2
あきた就職フェア	4.9

Q3 生成AIの利用

全体では、「利用した」とする回答割合が45.5%となった(図表4)。最終学歴別では、大学・大学院卒(57.4%)が中学・高校卒(44.8%)と専門・短大卒(33.3%)を上回った。

利用した回答者120名のうち、利用目的では、「面接対策」(71.7%)が他項目を30ポイント以上上回り、最も割合が高くなった(図表5)。

図表4 生成AIの利用 (単位: %)

	利用した	利用しなかった
全体	45.5	54.5
中学・高校卒	44.8	55.2
専門・短大卒	33.3	66.7
大学・大学院卒	57.4	42.6

図表5 生成AIの利用目的(2項目複数回答)

	(単位: %)
面接対策	71.7
自己分析	40.0
業界や企業情報の収集	24.2
エントリーシートなどの推敲	10.0
エントリーシートなどの作成	9.2
その他	1.7

Q4 インターンシップの経験はありますか

インターンシップ経験がある割合は全体の75.6%となり、前回調査(78.5%)から2.9ポイント低下した(図表6)。最終学歴別の経験割合は、中学・高校卒(83.3%)で最も高くなり、次いで、専門・短大卒(62.9%)、大学・大学院卒(55.3%)となった。地域別では、大館市(87.5%)が8割を超え、他地域を上回った。

また、インターンシップ経験者198名のうち、インターンシップ先に就職した割合は44.2%となり、前回調査(38.4%)を5.8ポイント上回った。最終学歴別では、専門・短大卒(54.5%)が最も高く、中学・高校卒(43.6%)、大学・大学院卒(38.5%)を上回った。地域別では、大館市(61.9%)と湯沢市(50.0%)が5割以上となり、他地域を上回った。

図表6 インターンシップについて

	(単位: %)	(単位: %)
	インターンシップの経験がある	インターンシップ先に就職した
全体	75.6	44.2
中学・高校卒	83.3	43.6
専門・短大卒	62.9	54.5
大学・大学院卒	55.3	38.5
秋田市	72.6	40.8
大館市	87.5	61.9
能代市	74.5	42.9
大仙市	79.3	39.1
横手市	74.3	42.3
湯沢市	76.2	50.0



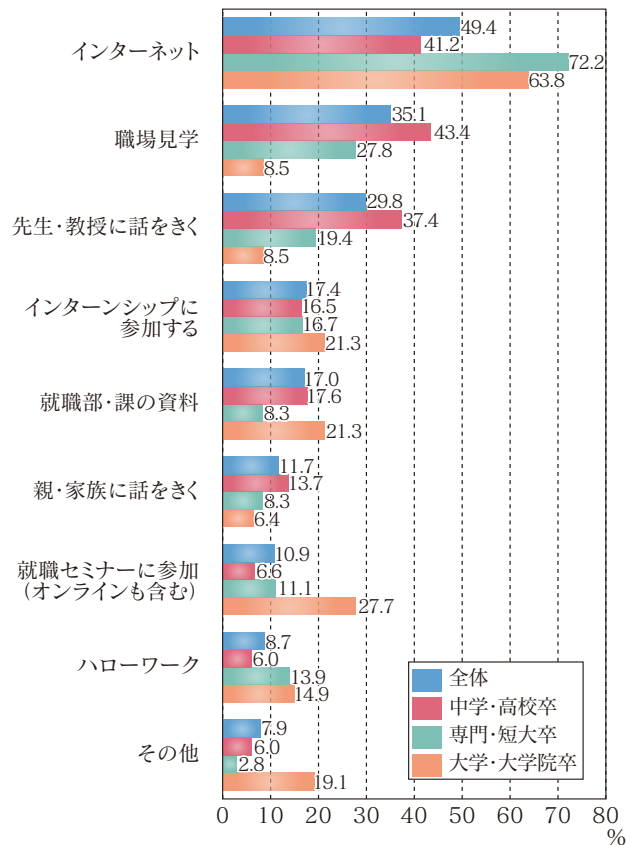
Q5 効果的だった情報収集方法は何ですか
(2項目複数回答)

全体では、回答割合が高い順から、「インターネット」(49.4%)、「職場見学」(35.1%)、「先生・教授に話をきく」(29.8%)となった。

(図表7)

最終学歴別では、「インターネット」は専門・短大卒(72.2%)、大学・大学院卒(63.8%)で回答割合が高くなり、中学・高校卒(41.2%)を20ポイント以上上回った。「職場見学」は中学・高校卒(43.4%)、専門・短大卒(27.8%)、大学・大学院卒(8.5%)となり、最終学歴が上がるにつれて割合が低下した。「先生・教授に話をきく」も同様に、中学・高校卒(37.4%)が最も高くなった。また、「就職セミナーに参加(オンラインも含む)」は、大学・大学院卒(27.7%)でのみ割合が2割を超え、専門・短大卒(11.1%)と中学・高校卒(6.6%)の2倍以上となった。

図表7 効果的だった情報収集方法は
(2項目複数回答)

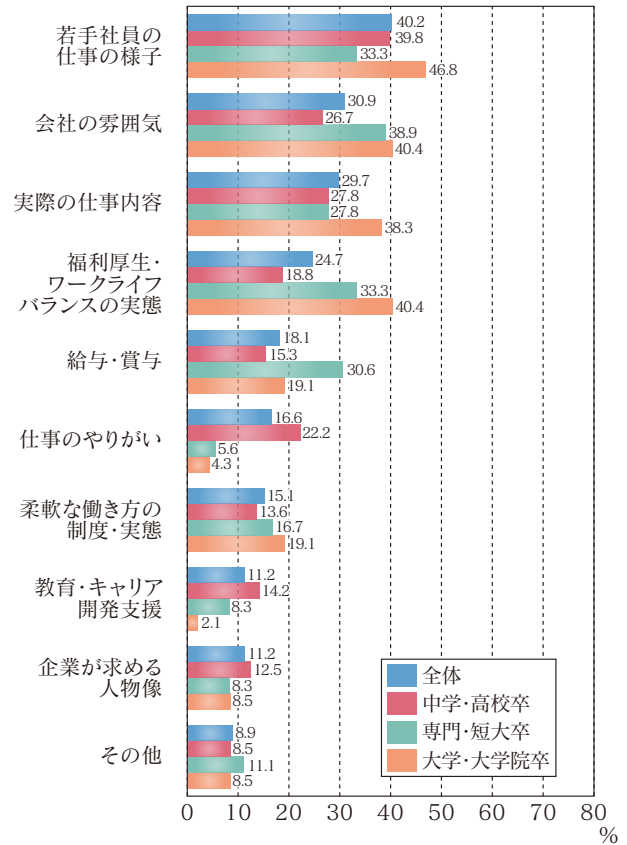


Q6 就職活動中にもっと知りたかった情報は
何ですか(3項目複数回答)

全体では、回答割合が高い順から、「若手社員の仕事の様子」(40.2%)、「会社の雰囲気」(30.9%)、「実際の仕事内容」(29.7%)、「福利厚生・ワークライフバランスの実態」(24.7%)となった(図表8)。

最終学歴別では、「若手社員の仕事の様子」は大学・大学院卒(46.8%)で最も割合が高くなり、中学・高校卒(39.8%)と専門・短大卒(33.3%)を上回った。「会社の雰囲気」は、中学・高校卒(26.7%)、専門・短大卒(38.9%)、大学・大学院卒(40.4%)となり、最終学歴が上がるにつれて割合が上昇した。「実際の仕事の内容」は、大学・大学院卒(38.3%)でのみ3割台となり、中学・高校卒と専門・短大卒(同じく27.8%)を10ポイント以上上回った。

図表8 就職活動中にもっと知りたかった情報は
(3項目複数回答)





Q7 県外での就職を希望したことがありますか

県外就職を希望したことがある割合は、全体の39.9%となった（図表9）。本質問を設けた1999年以来最も低い割合となった前回調査（38.2%）から1.7ポイント上昇したものの、2年連続で3割台と低い水準となった。

最終学歴別では、専門・短大卒（52.8%）が5割を超え、大学・大学院卒（46.8%）と中学・高校卒（35.6%）を上回った。

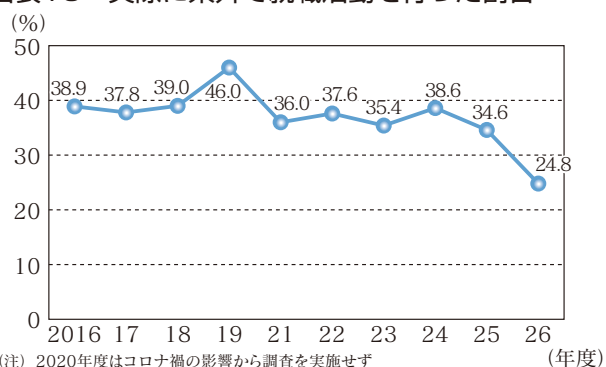
県外就職を希望したことのある回答者105名のうち、実際に県外で就職活動を行った割合は、前回調査（34.6%）比△9.8ポイントと大きく低下し、24.8%となった（図表10）。

また、県外での就職を希望した理由としては、「都会での生活を体験してみたかった」（40.0%）が最も割合が高くなった（図表11）。

図表9 県外での就職を希望したことがありますか
(単位：%)

	ある	ない	覚えていない
全体	39.9	56.7	3.4
中学・高校卒	35.6	60.6	3.9
専門・短大卒	52.8	44.4	2.8
大学・大学院卒	46.8	51.1	2.1

図表10 実際に県外で就職活動を行った割合



図表11 県外での就職を希望した理由

	(単位：%)
都会での生活を体験してみたかった	40.0
地元や親元を離れて生活してみたかった	25.7
地元よりも条件のよい勤め先があった	22.9
地元で希望職種の勤め先がなかった	6.7
その他	4.8

Q8 県内での就職を決めた理由は何ですか

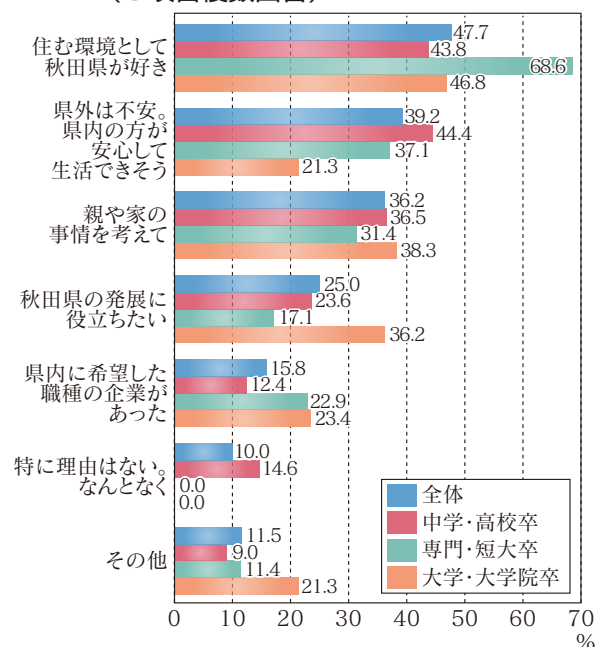
(3項目複数回答)

全体では、「住む環境として秋田県が好き」（47.7%）が最も割合が高くなった（図表12）。

最終学歴別では、専門・短大卒と大学・大学院卒で「住む環境として秋田県が好き」（68.6%、46.8%）が最も割合が高くなった。中学・高校卒では、「県外は不安。県内の方が安心して生活できそう」（44.4%）が最も高くなった。

地域別では、「住む環境として秋田県が好き」は秋田市（51.9%）、能代市（51.1%）、大仙市（50.0%）が5割以上となり、他地域を上回った（図表13）。「県外は不安。県内の方が安心して生活できそう」は能代市（46.8%）と大館市（45.8%）で、「親や家の事情を考えて」は大仙市（53.3%）で、それぞれ他地域を上回った。

図表12 県内での就職を決めた理由は何ですか
(3項目複数回答)



図表13 上位3項目で回答割合が高い地域

住む環境として秋田県が好き	秋田市	51.9%
	能代市	51.1%
	大仙市	50.0%
県外は不安。県内の方が安心して生活できそう	能代市	46.8%
	大館市	45.8%
親や家の事情を考えて	大仙市	53.3%

Q9 就職先を選んだ理由は何ですか
(3項目複数回答)

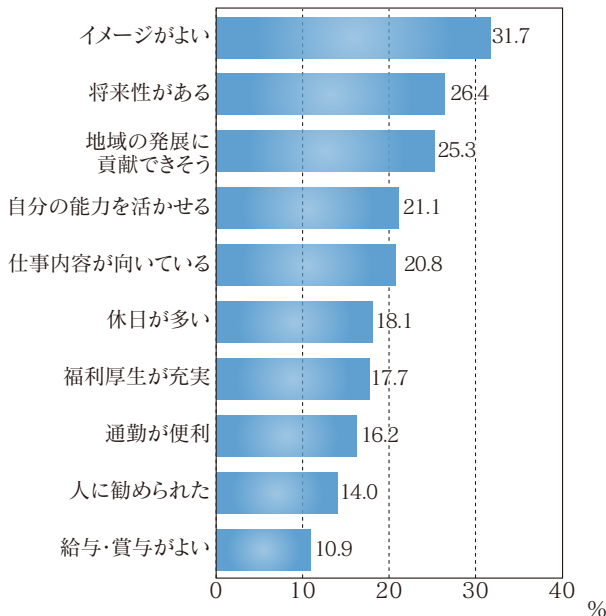
全体では、回答割合が高い順から、「イメージがよい」(31.7%)が3割を超えた。次いで、「将来性がある」(26.4%)、「地域の発展に貢献できそう」(25.3%)、「自分の能力を活かせる」(21.1%)、「仕事内容が向いている」(20.8%)が2割台となった(図表14)。

最終学歴別では、「イメージがよい」が専門・短大卒(36.1%)と中学・高校卒(33.5%)で最も高い割合となった(図表15)。大学・大学院卒では、「将来性がある」(34.0%)が最も高くなった。

地域別では、「イメージがよい」は大館市(41.7%)、「将来性がある」は横手市(34.3%)、「地域の発展に貢献できそう」は大仙市(41.9%)で割合が高くなり、それぞれ他地域を上回った。

(図表16)

図表14 就職先を選んだ理由は何ですか
(3項目複数回答)



図表15 学歴別の就職先を選んだ理由第1位

中学・高校卒	イメージがよい	33.5%
専門・短大卒	イメージがよい	36.1%
大学・大学院卒	将来性がある	34.0%

図表16 上位3項目で回答割合が高い地域

イメージがよい	大館市	41.7%
将来性がある	横手市	34.3%
地域の発展に貢献できそう	大仙市	41.9%

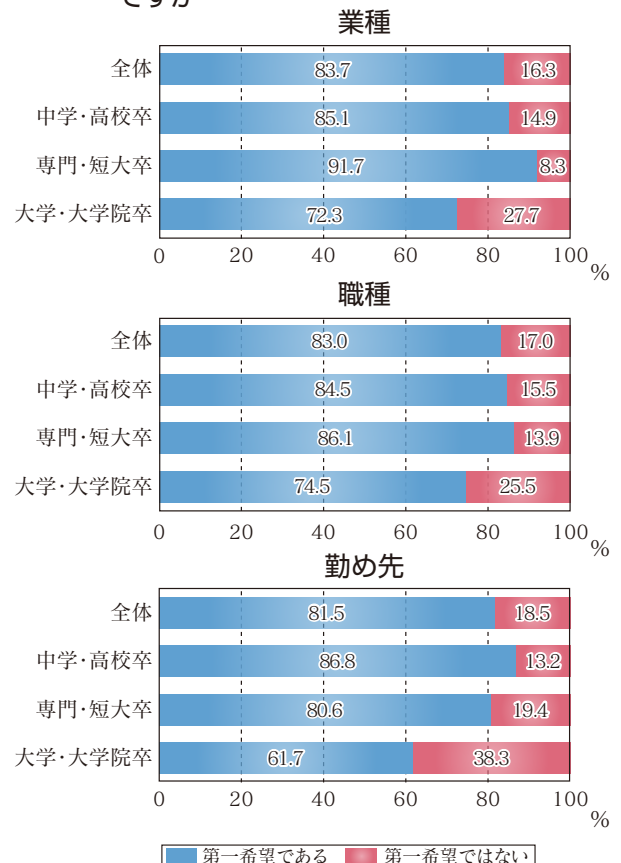
Q10 就職先の業種・職種・勤め先は第一希望先ですか

就職先の業種が第一希望であると回答した割合は、全体の83.7%となった(図表17)。専門・短大卒(91.7%)が最も高い割合となった。

職種が第一希望の割合は全体の83.0%で、専門・短大卒(86.1%)と中学・高校卒(84.5%)が大学・大学院卒(74.5%)を上回った。

勤め先が第一希望の割合は全体の81.5%で、中学・高校卒(86.8%)と専門・短大卒(80.6%)が大学・大学院卒(61.7%)を上回った。

図表17 就職先の業種・職種・勤め先は第一希望先ですか





Q11 現在の勤め先でいつまで働きたいですか

全体では、「分からない」(34.7%)、「定年まで」(32.5%)が3割台となった(図表18)。また、「条件や状況次第では転職したい」(20.0%)と「技能習得や業務経験が十分になれば転職したい」(3.0%)を合わせた“転職派”は23.0%となった。

前回調査と比べて、現在の勤め先で定年までの勤続を希望する“定年派”は4.9ポイント低下した(図表19)。一方で、“転職派”は0.6ポイント上昇し、なかでも「条件や状況次第では転職したい」が2.6ポイント上昇した。

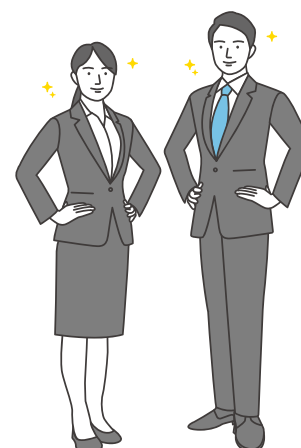
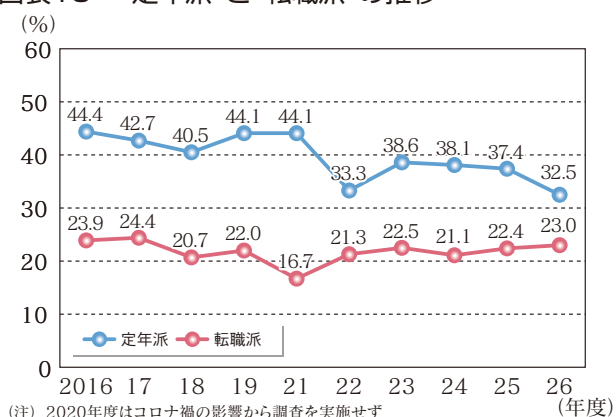
最終学歴別にみると、専門・短大卒と大学・大学院卒では、「分からない」(44.4%、31.9%)が最も割合が高くなった。中学・高校卒では、「定年まで」(34.6%)と「分からない」(33.5%)が3割台となり、他項目を上回った。

図表18 現在の勤め先でいつまで働きたいですか

(単位：%)

	定年まで	転職希望			将来は独立希望	いやな事があつたら辞めたい	結婚・子どもの誕生を機に退職したい	分からない	その他
		条件や状況次第では転職したい	技能習得や業務経験が十分になれば転職したい	その他					
全体	32.5	23.0	20.0	3.0	3.0	3.4	1.5	34.7	1.9
中学・高校卒	34.6	22.0	19.8	2.2	2.7	2.7	2.2	33.5	2.2
専門・短大卒	30.6	13.9	11.1	2.8	5.6	5.6	0.0	44.4	0.0
大学・大学院卒	25.5	34.0	27.7	6.4	2.1	4.3	0.0	31.9	2.1

図表19 “定年派”と“転職派”の推移



2 まとめ

2026年度の新入社員アンケートでは、就職先を選定した理由として「イメージがよい」を選択した割合が最も高く、就職活動中にもっと知りたかった情報では「若手社員の仕事の様子」「会社の雰囲気」が多く挙げられた。また、第一希望先に就職した割合が高い一方で、いつまで働くかを「分からない」とする割合も高い。定年までの勤続を希望する割合をみても、低下傾向が続いている。

企業は、新入社員の定着に向け、就職活動中に抱いていたイメージと就職後に実際に経験する現実との間で何らかのギャップが生じないように、積極的にコミュニケーションを取り、相互理解を深めることなどを通して、新入社員が安心して長く働ける職場づくりに取り組むことが求められる。(相沢 陽子)